

三部安紀子会長を再選

第38回総会

サローネ

関岡 モンテ物産
札幌支店長

がワインを語る

北海道日伊協会は第38回総会を7月13日、札幌グランドホテルで開き、役員改選で三部安紀子会長の留任を決め、副会長に金子国彦、米倉紘一両理事を選任しました。総会に続きサローネ・ディタリアを開き、関岡練・モンテ物産札幌支店長による講演「イタリアワインの魅力」を聴き、ワインへの理解を深めました。

副会長に金子、米倉両理事

総会は東館17階の青雲の間に初代会長の外川継男北大名誉教授をはじめ会員20人が参加して開かれました。

三部会長は「引き続き会長を務めたい。いつも会って言い合える会にしたい。ご協力をお願いしたい」と挨拶し、会長に再選されました。副会長の松浦茂さんと善養寺圭子さんは理事に就任。新監査に菅原明子さんが選任されました。浅原、山崎、小助川、山田、幸正、喜井各理事、水上監査は留任。

事務局の山田晋笹理事から、会員動向、事業報告・決算報告、伊語教室の運営状況などについて

以下のとおり報告がありました。会員数は個人51人（ペア会員も含む）、法人会員3社、名誉会員10人。事業としては、サローネ・ディタリアは「安田侃講演会」を含めて4回開催、会報は3回発行。伊語教室は、会の持ち出しになっているので、魅力あるプログラムで生徒増を図る必要があるとして、会員に協力

要請がありました。

このあとサローネ、懇親会に移り、高校時代からスキーのイタリア合宿、現在はイタリア貿易に従事という本格的なイタリア通の関岡さんは、「ワインづくりは4000年前のギリシャに始まり、シチリアに伝えられ、ローマ帝国の軍団がフランス、ドイツに広めた。肉を食べる内陸は赤ワイン、魚貝類を食べる浜辺では白ワインの産地が多い」などと解説するとともに、「イタリアワインは選びにくいといわれるが、品種・銘柄にこだわらず、安いものから試すといい」とアドバイス。理解を深めたうえでグラスを満たした同物産提供のワインの味は格別でした。

（講演の内容は2面に）



総会后、記念撮影。前列右から3人目は外川継男初代会長、2人目は関岡練さん

10月5, 6日と教育文化会館で行われた北海道二期会のオペラ公演「こうもり」は無事終了しました。思えば半年前からオーディション、稽古と毎日の様に激しい日々続き。キャストはよく最後まで体力持ち続けたと思う程。特に本番前の一週間は通し稽古、オケ合わせ、G・P、本番と毎日連続の休む暇ない声帯の酷使。日頃からテクニックの訓練が出来ていないと、かなり疲労度が出てくるハードスケジュール。とにかく体力、気力の世界なのです。

最後までよく頑張ったキャスト達にここで改めて褒めてあげたいです。

指揮者は大阪から牧村邦彦氏、演出は東京から岩田達宗氏をお呼びし、彼らの中央での活躍めざましい中、地元が育

人生！音楽の旅

⑭

三部 安紀子



ってほしい一念で何度も来札していただき稽古をつけてもらいました。スピリチュアリストである江原啓之氏も今回気持ち良くバリトンの歌を引き受けて下さり、バレエは札幌舞踊会の若い皆様にご協力いただき、華やかな舞台を創る事ができました。オーケストラは、これも新しい北海道室内管弦楽団。将来性ある素晴らしいオケ。

ゲスト、観客を迎える
 三部安紀子二期会理事
 長
 〓 日伊協会の花束の前で

オペラは総合芸術とはよく言ったもの。まさに今回の舞台は素晴らしい展開と自負しております。客席からも楽しい笑い声と拍手が途中から湧き起こり、カーテンコールには盛大な長い長い拍手とブラボーの声、スタンディングする観客もあり、と見事に盛大に終了できました。お客様の幸せそうな表情を帰りの出口で確認するのも私の大きな役目。今回も私自身充電した思いです。

演目である「こうもり」は1873年ヨハン・シュトラウスⅡ世が作曲、翌年4月5日にアン・デア・ウィーン劇場で初演。全3幕のオペレッタですが今回は二幕仕立てで公演しました＝プログラム写真。

二期会の「こうもり」公演



総勢175人が華やかな舞台支える

この作品はオペレッタの中でも最高峰とされ「王様の如き傑作」と言われています。ウィーンが誇る美しいウィンナワルツとポルカのメロディで、全てはシャンパンの泡のせい…今を楽しもうという非日常の楽しい舞台は当時のウィーンの人々に多くの夢と希望を与えたという作品。私達もウィーンの人々と同じく希望と夢が描ける世の中で生きていきたいですね！

(会長、北海道二期会理事、みべ音楽院長)

復活！ イタリア映画会シリーズ

「サローネ CINEMA」がスタートします

第1回 11月9日(金) — 解説は「ミチコの映画館」の金川さん

イタリアを愛してやまない会員の皆様、映画にも大いに関心を持たれファンの方も多きことと思ひます。北海道日伊協会では、1994年6月に名作「自転車泥棒」を上映したのを皮切りに33回の映画鑑賞会を開いてきました。当時事務局にいた漫画『テルマエ ロマエ』の作家山崎マリさんらが解説に当たり、人気がありましたが、この10年中断したまになっていました。

不朽の名作・近年の話題作などを鑑賞し、語り合いを楽しむ、そんな会をぜひ持ちたいという声が高まり、「サローネ CINEMA」として、映画会シリーズを復活させることにしました。1年に4、5回のペースで開催していく予定です。ご覧になりたい映画のリクエストもお寄せください。

第1回 サローネ CINEMA 『星降る夜のレストラン』

1998年 ファニー・アルダン監督

日時 11月9日(金) 午後6時30分開場、見所解説6時50分、7時上映開始

会場 みべ音楽院 中央区大通西14丁目(南向)

会費 ワイン・軽食付き 日伊協会員 500円 一般 1000円

問い合わせは北海道日伊協会事務局へ

電話 011・241・0345 FAX011・241・0567

Mail : shin-y0123@brightsapporo.com

福島原発被災者支援プロジェクト

Italian Friends for Japan 佐々木ゆかり会員が引率ボランティアに協力された(3頁参照)のは、イタリア政府観光局(ENIT)による、福島原子力発電近隣に住みイタリアでの滞在を希望する母子を対

象にしたプロジェクト。アドバンテージ・フィナンシャル社の拠出金(当初10万ユーロ)を資金に、最長3ヵ月間の滞在が無料で提供されます。目的は被災者の不安、ストレス開放とリフレッシュ。昨年4月に発表、多数の応募がありました。

編集後記

佐々木ゆかりさんの40日間ボランティア。決断された勇気に圧倒され、無事やりとげられたご苦労を、事務局への礼状からしのびました▼サローネで関岡さんからワインのお話をうかがったところですが、食について会員諸氏がそれぞれ蘊蓄を傾けています。なかなか深いなあー▼長かった酷暑が去り秋本番。ここで夏の思い出を1枚。ジョギングの途中、北区屯田の創成川のふちで、3メートル近く伸び、たくさんの黄色い花を付けた特異な植物に出会いました(写真)。ピロードモウズイカという地中海沿岸原産の帰化種。どこから流れ着いたのか。またたくさんの種子が下流に流れていくだろうと想像していたところ、土手の草刈りでばっさり。種の存続の長い旅の一つはここで断ち切られたのでした(金子国彦)

